

AREホールディングス株式会社 2024年3月期 第2四半期決算説明資料

2023.10.26

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

I. 2024年3月期 第2四半期決算

(2023年4月～2023年9月)

Financial Results for Q2 FY2023

II. 参考資料

Appendix

概要

売上収益 1,519億円（前年同期比+192億円）

営業利益 70億円（前年同期比 △45億円）

ロジウムの影響

- ・ 1Qに比べると2Qのロジウム価格は安定推移、しかしながらロジウム価格は前年9月末比で7割下落、前年比26億円の減益要因
- ・ ロジウムの価格変動リスク低減のための先渡し契約と代替ヘッジは計画通り進捗

その他の要因

- ・ パラジウム価格は前年9月末比4割下落
- ・ 触媒・エレクトロニクス分野の取引先の在庫調整が想定より長引く
- ・ 分社化に伴う会計処理の変更
- ・ 北米事業は好調に推移

通期業績予想について

金の販売量及び販売価格が当初予想比上回っているため売上収益を修正

ジャパンウェイスト

産業廃棄物業界の優良企業の持ち株会社であるレナタス社と株式交換を基本合意

貴金属事業(アサヒプリテック・アサヒメタルファイン・アサヒリファイニング)

国内貴金属リサイクルは高い金価格を背景に宝飾分野が好調な一方、パラジウム価格の低価により触媒分野が苦戦。北米精錬事業はトレーディング・前倒しなどの金融取引が好調の一方で製品加工・販売が減少。

分野	事業環境
デンタル	代替製品の浸透は続いているものの、患者数改善と営業施策強化により回収量は前年同数を確保。
宝飾	金価格高騰の影響から、宝飾リサイクル需要が高まり回収量は増加。
触媒	国内は円安とPGM価格低迷を背景に回収量が減少、海外は触媒メーカーからの回収量が減少。
エレクトロニクス	AI関連やEV需要が牽引し回復基調となるが、長引く中国市場の低迷の影響があり回収量は減少。
北米精錬事業	精錬に加えてトレーディングや前渡しなどの金融取引が好調の一方、製品加工・販売が減少。

環境保全事業(ジャパンウエスト)

廃液の取扱量はスポット案件の受注があり前年同期比で増加。医療系廃棄物はコロナ関連の減少を他の医療系廃棄物でカバー、横浜工場の事業転換により汚泥・木くずの取扱量が大幅減少。

処理品目	事業環境
廃液	一部回復基調にある業界もあるものの、電子電機関連、プリント基板関連は本格回復には至らず。
廃試薬	教育機関からの排出状況に大きな変化はないものの、同業他社の事業撤退もあり当社取扱量は増加。
医療系廃棄物	前年度のコロナ関連廃棄物の特需を差し引けば、医療系廃棄物の取扱量は増加傾向。
廃プラ	廃プラ排出量がやや低調な状況、セメント関連・RPF業者による需要増があり当社取扱量は減少傾向。
その他	横浜工場事業転換により汚泥・木くずの取扱量が大幅減少。

単位: 億円

	FY2022 2Q	FY2023 2Q		FY2023	
	実績	実績	前期比 増減	修正予想	前期比 増減
売上収益	1,327	1,519	192	2,900	△24
営業利益	115	70	△45	190	△3
営業利益率	8.7%	4.6%	△4.1%	6.6%	△0.1%
税引前利益	102	72	△30	185	24
当期利益※1	73	53	△20	132	23
設備投資	21	29	9	124	75
減価償却費	16	18	2	31	△2

※1 親会社の所有者に帰属する当期利益

貴金属リサイクル事業(国内アジア)

FY2023 2Q

宝飾分野から回収が増加し金の販売量が増加、金の価格も上昇。一方で、ロジウム価格やパラジウム価格の下落や触媒及びエレクトロニクス分野の取引先の在庫調整の影響を受け回収量が減少。

➡増収・減益

北米精錬事業

FY2023 2Q

精錬手数料、トレーディングや前渡し収益が増加。

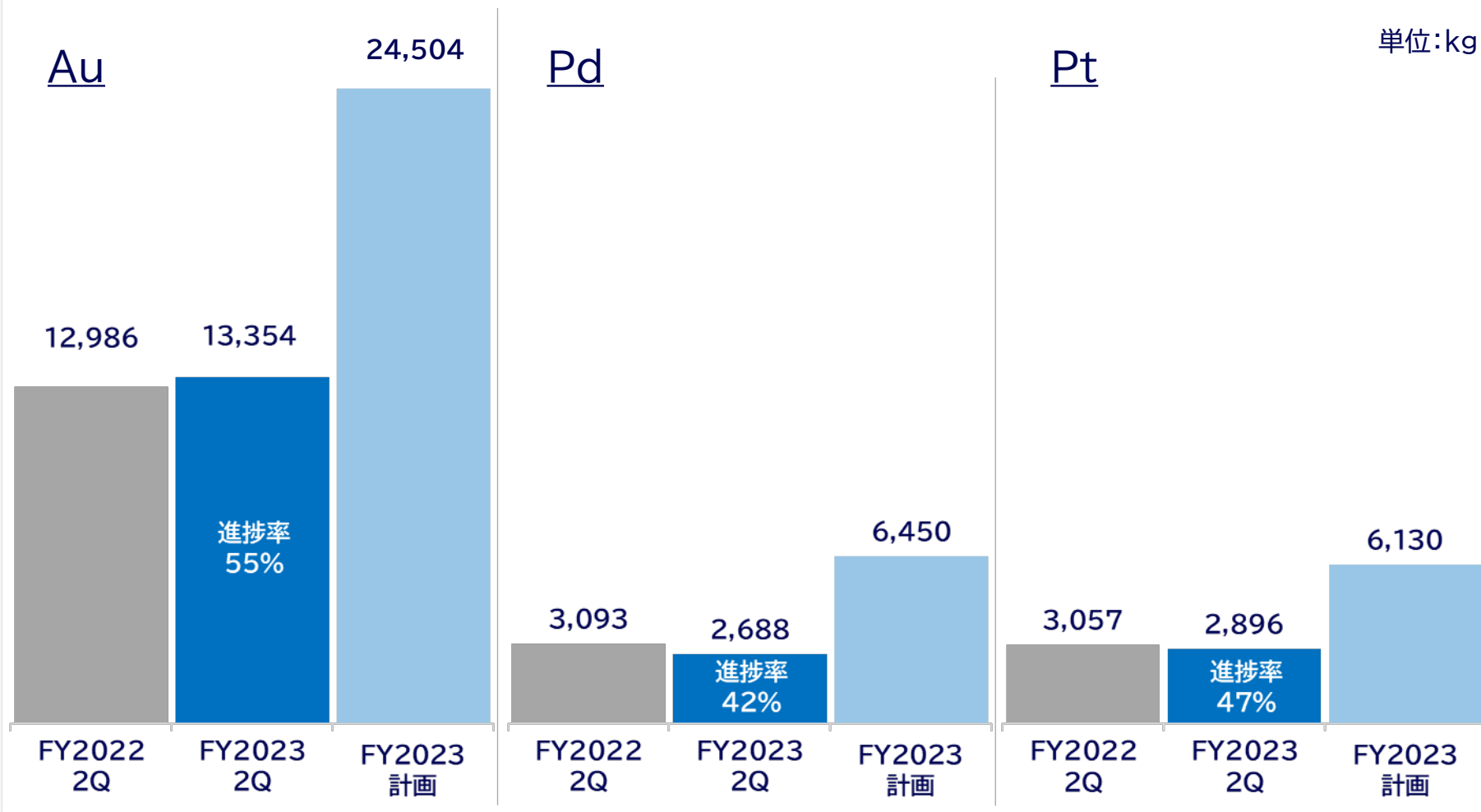
➡増収・増益

(単位: 億円)

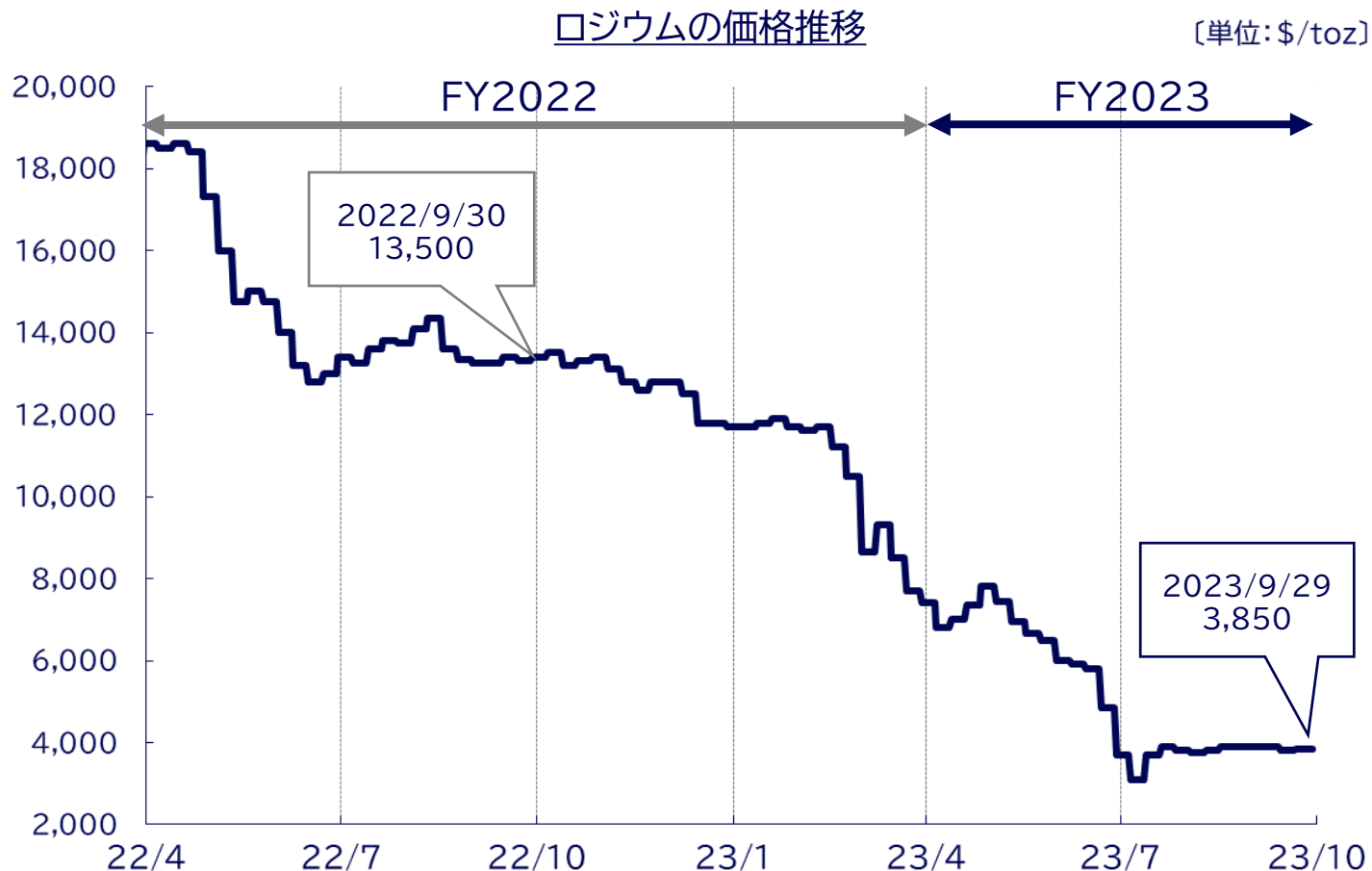
貴金属	FY2022 2Q	FY2023 2Q		FY2023	
	実績※	実績	前期比増減	予想	前期比増減
売上収益	1,239	1,439	200	2,720	△ 22
営業利益	105	61	△ 44	167	△ 31
利益率	8.5%	4.2%	△ 4.3%	6.1%	△ 1.1%

※FY2023からセグメント会計基準の変更に伴い、FY2022実績は遡及処理しております。

- 金の回収量は好調だが、パラジウム及びプラチナは触媒を中心に回収量が減少



- ロジウムの価格は1Qに大きく下げた後、2Qは概ね不変であるも依然低位
- 価格下落による影響は1Qよりも2Qの方が少ないが、上期でみると前年同期比△26億円
- 先渡し契約による実質的なヘッジと7月より開始した代替的ヘッジにより、ロジウムの価格変動影響は逡減見込み



※参照:Metals Week NY Dealer Prices

環境保全事業

FY2023 2Q

施設の稼働率は高水準であったが、コロナ関連廃棄物の減少による医療系廃棄物の単価下落、横浜工場の新焼却炉建設に伴う事業転換の影響を受ける。

➡減収・減益

(単位:億円)

環境	FY2022 2Q	FY2023 2Q		FY2023	
	実績※	実績	前期比増減	予想	前期比増減
売上収益	88	80	△ 8	180	△ 2
営業利益	17	11	△ 6	23	△ 15
利益率	19.5%	13.7%	△ 5.8%	12.8%	△ 8.3%

※FY2023からセグメント会計基準の変更に伴い、FY2022実績は遡及処理しております。

単位:億円

	2023年 3月末	2023年 9月末	増減	備考
流動資産	2,384	3,381	997	
営業債権	1,540	2,343	802	営業債権残高および増減額の大部分は北米事業の前渡し取引等による借入金見合いの債権。
棚卸資産	409	356	△ 53	棚卸資産残高および増減額の大部分は貴金属リサイクル事業の貴金属含有原材料/仕掛品/製品。原則として買取時に貴金属価格をヘッジしているため、価格変動リスク、品質劣化リスクともに限定的。
その他	435	682	248	
非流動資産	491	543	52	
資産計	2,874	3,923	1,049	
負債	1,805	2,730	925	
社債及び 借入金	1,444	2,296	853	大部分は北米事業の前渡し取引等の借入金。原料入荷後に借入で前渡し地金を調達し、返済期日にあわせて貴金属価格をヘッジしているため、価格変動リスク、貸倒リスクともに極めて限定的。
その他	361	434	72	
資本	1,070	1,193	124	
資本・負債計	2,874	3,923	1,049	

単位: 億円

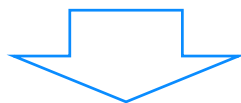
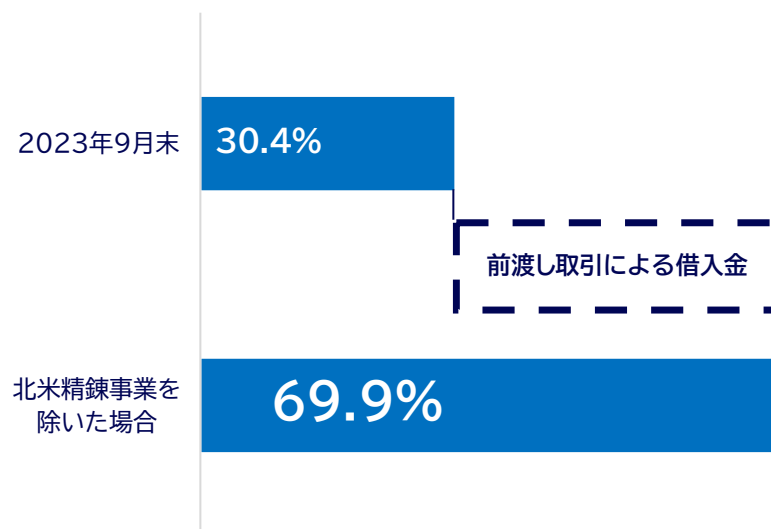
	FY2023 2Q	備考
営業活動によるキャッシュフロー	104	
棚卸資産の増減額	53	増減額の大部分は貴金属リサイクル事業の貴金属含有原材料/仕掛品/製品。貴金属含有量を分析してから購入し、原則として先物市場で貴金属価格をヘッジしているため、価格変動リスク、品質劣化リスクともに限定的。
営業債権及び その他の債権の増減額	△ 609	増減額の内、△502億円は北米事業の前渡し取引等による借入金見合いの債権の増減額。原料入荷後に借入で前渡し地金を調達し、返済期日にあわせて貴金属価格をヘッジしているため、価格変動リスク、貸倒リスクともに極めて限定的。
営業債務及び その他の債務等の増減額	538	増減額の内、528億円は北米事業の前渡し取引等による借入金の増減額。借入金の増減額の内、北米事業の前渡し取引等による借入金の増減額は、財務CFではなく、営業CFの営業債権の増減額として表示。
その他	123	
投資活動によるキャッシュフロー	△ 132	貸付けによる支出135億円
財務活動によるキャッシュフロー	104	
借入金の増減	141	
配当金の支払い額	△ 34	
その他	△ 2	
換算差額	△ 18	
現預金の増減額	58	

財政状態

単位: 億円

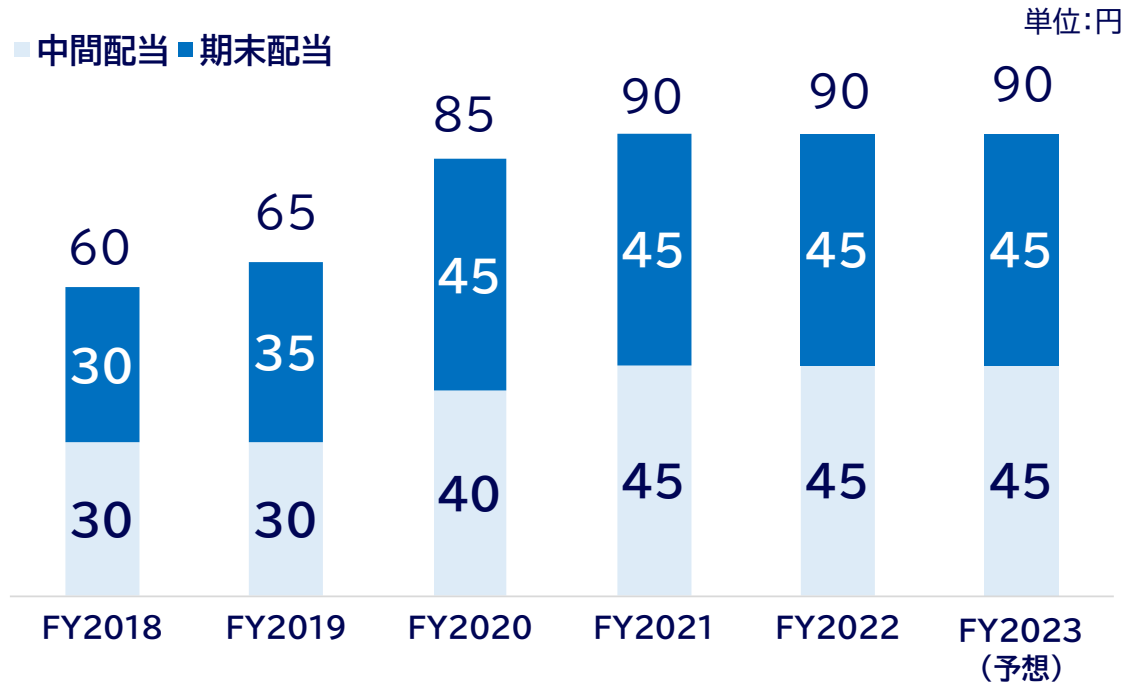
	2023年 9月末	北米精錬事業を 除いた場合
流動資産	3,381	1,165
非流動資産	543	543
資産計	3,923	1,707
負債	2,730	514
資本	1,193	1,193
資本・負債計	3,923	1,707

自己資本比率



- 金融サービスに必要な資金を低利で調達
- 前渡し取引は精錬契約に付帯する取引
- 前渡しのスプレッドは金利環境によらず概ね不変

基本方針:成長戦略のための設備投資やM&Aに必要な内部留保の充実を図りながら、
 配当性向40%を目処とし、現在の年間配当水準から目減りさせず、安定的に配当を継続する



1株当たり利益 (円)	125.12	326.90	238.11	141.19	172.23
配当性向(%)	52.0	26.0	37.8	63.7	52.3

※2021年4月1日に1:2の株式分割を実施しており、2021/3期までの1株当たり配当金および1株当たり利益は分割後のベースに換算して表示

投資目的:事業拡大・利益率向上
第9次中期経営計画(3年間)投資総額:227億円



坂東工場

・アジア最大級の最先端リサイクル工場

北米精錬事業
(精錬&倉庫設備)

・倉庫事業の立上げ&既存設備強化



横浜焼却炉*イメージ

・東日本地域の廃棄物を大型焼却拠点

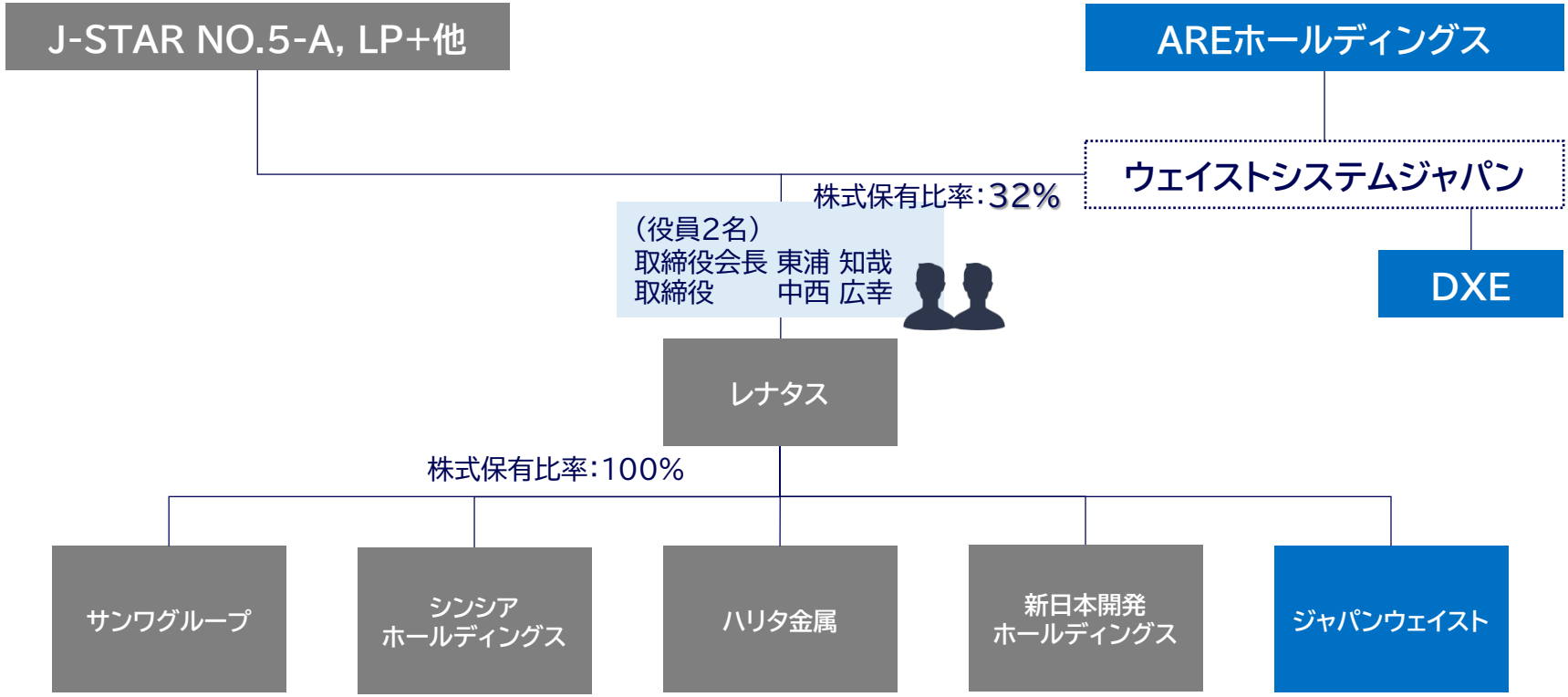
単位:億円

	FY2021	FY2022	FY2023
	実績	実績	計画
貴金属事業	77	45	104
国内	40	25	57
海外	36	20	46
環境保全事業	7	5	21

15 環境ソリューションのリーディングカンパニーを目指して ARE

- 産業廃棄物処理の企業グループであるレナタスを完全親会社として、ジャパンウェイトを完全子会社化とした株式交換を行うことに基本合意
- 本件後には、環境保全事業を承継するウェイトシステムジャパンが、レナタス株式の32%を保有予定
- 東浦が取締役会長に、中西が取締役に就任し、レナタスは環境ソリューションのリーディングカンパニーへ
- また、レナタスとして上場を目指す

(株式交換後のストラクチャー)



- 株式交換を通じて売上高が業界トップ水準に
- ジャパンウエストの全国規模の営業網と、レナタスの所有する首都圏、中部圏、近畿圏、北陸圏の大規模処理施設とのシナジーの発揮、当社貴金属事業との協力を強化することで、企業価値の向上を目指す

産業廃棄物処理企業	売上高 (億円)
A社	677
レナタス	544
B社	340
C社	188
ジャパンウエスト	182
D社	164
E社	78
F社	48



レナタスの決算数値はグループ企業の直前期決算数値(決算数値が確定していないものは、直前々期の数値)と当社環境保全事業セグメント数値の単純合算(2023年3月期決算数値前提)
 B社及びD社は2023年2月期、F社は2022年12月期決算数値よりそれぞれ抜粋
 上記以外は2023年3月期決算数値より抜粋

I. 2024年3月期 第2四半期決算

(2023年4月～2023年9月)

Financial Results for Q2 FY2023

II. 参考資料

Appendix

- 触媒分野の工場を愛媛から坂東に集約するため、坂東工場の拡張を計画(第2期)、2025年4月に稼働予定。同時にエレクトロニクス分野の処理能力も拡大予定。
- 生産拠点の統廃合と最先端技術の搭載により、コスト競争力の向上を目指す

・坂東工場(第2期)完成イメージ図



- TCFD準拠の開示、CDP気候変動でBスコア獲得
- 「投資者にとって投資魅力の高い会社」で構成されるJPX日経インデックス400に4年連続選定
- GPIFが活用する国内株式のESGインデックス6本の内4本の構成銘柄に選定

外部からの評価*

MSCI
ESG RATINGS



CCC	B	BB	BBB	A	AA	AAA
-----	---	----	------------	---	----	-----



スコア
B

*2022年における外部評価に基づく

ディスクレイマー

AREホールディングスを MSCI インデックスに含めること、および MSCI のロゴ、商標、サービスマーク、またはインデックス名を使用することは、MSCI またはその関連会社がAREホールディングスを後援、承認、または宣伝することを意味するものではありません。MSCI インデックスは MSCI の独占的財産です。MSCI ならびに MSCI インデックスの名称およびロゴは MSCI またはその関連会社の商標またはサービスマークです。

インデックス(含むESG関連)への採用



JPX-NIKKEI 400

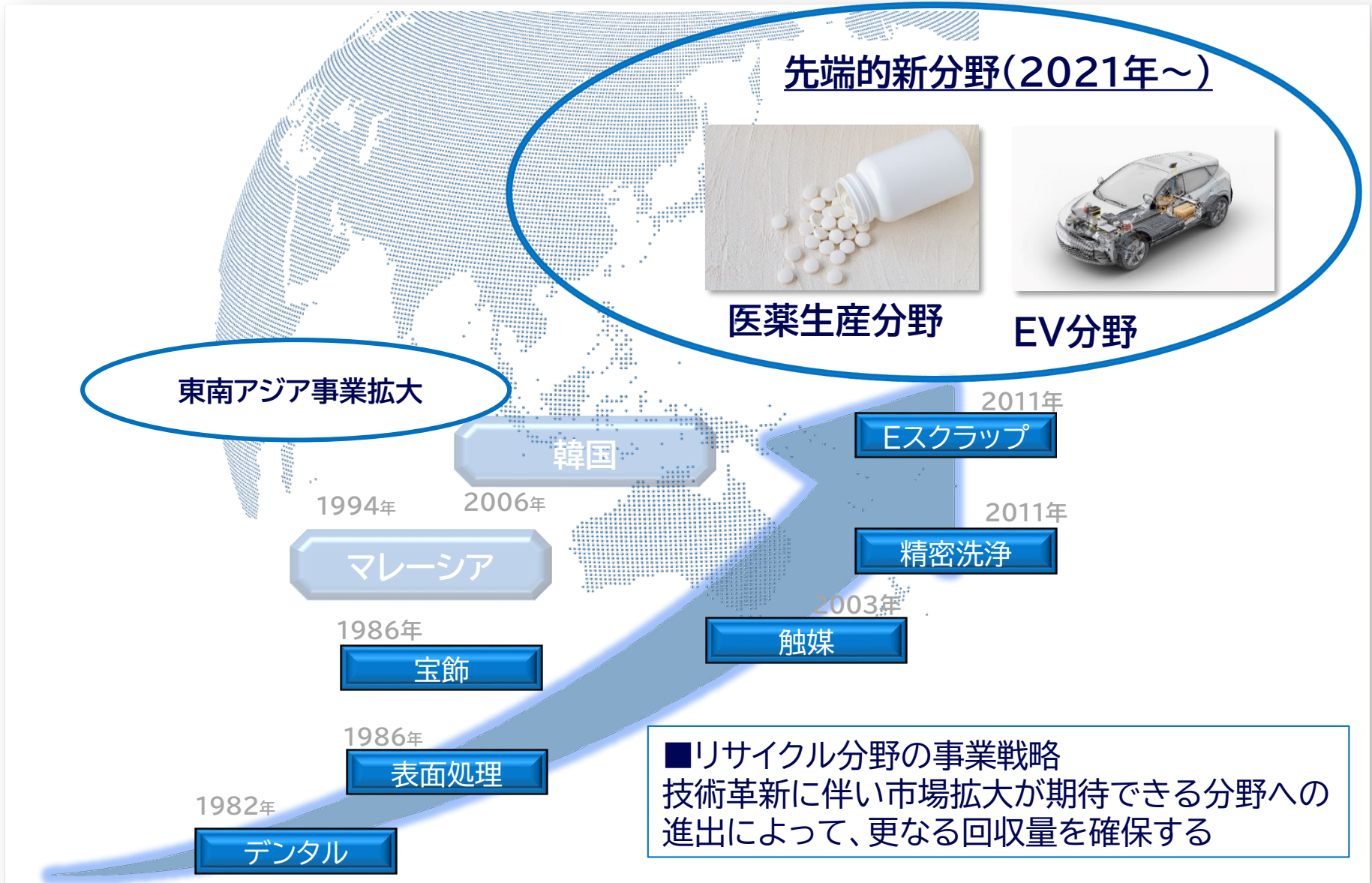


**FTSE Blossom
Japan Sector
Relative Index**

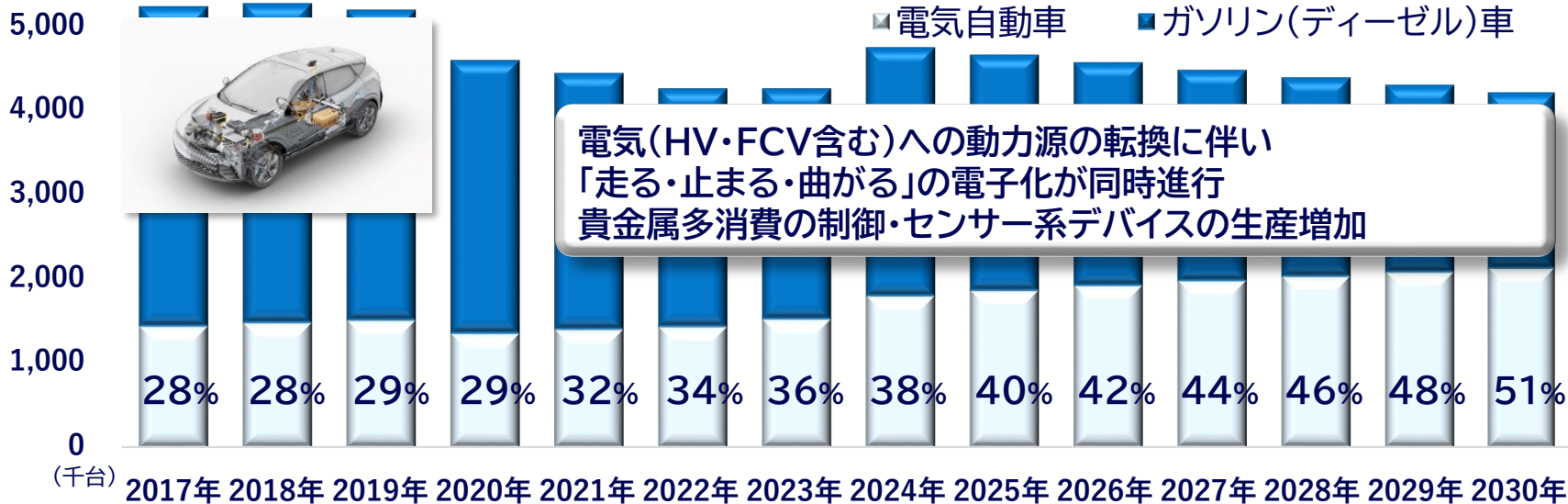


Morningstar® 日本株式ジェンダー・ダイバーシティ・ティルト指数(除くREIT)

**2023 CONSTITUENT MSCI日本株
女性活躍指数 (WIN)**



社会の課題解決がリサイクル新市場を創造、当社のビジネスチャンスを生む



出典: 日本自動車販売協会連合会のデータを元に当社推計



出典: EvaluatePharma®のデータを元に当社推計

2022年度～

金融事業の強化

- ・トレーディング
- ・貴金属倉庫
- ・融資、仕組み金融
(南米鉱山の環境対策資金支援等)

ダウンストリームの開拓

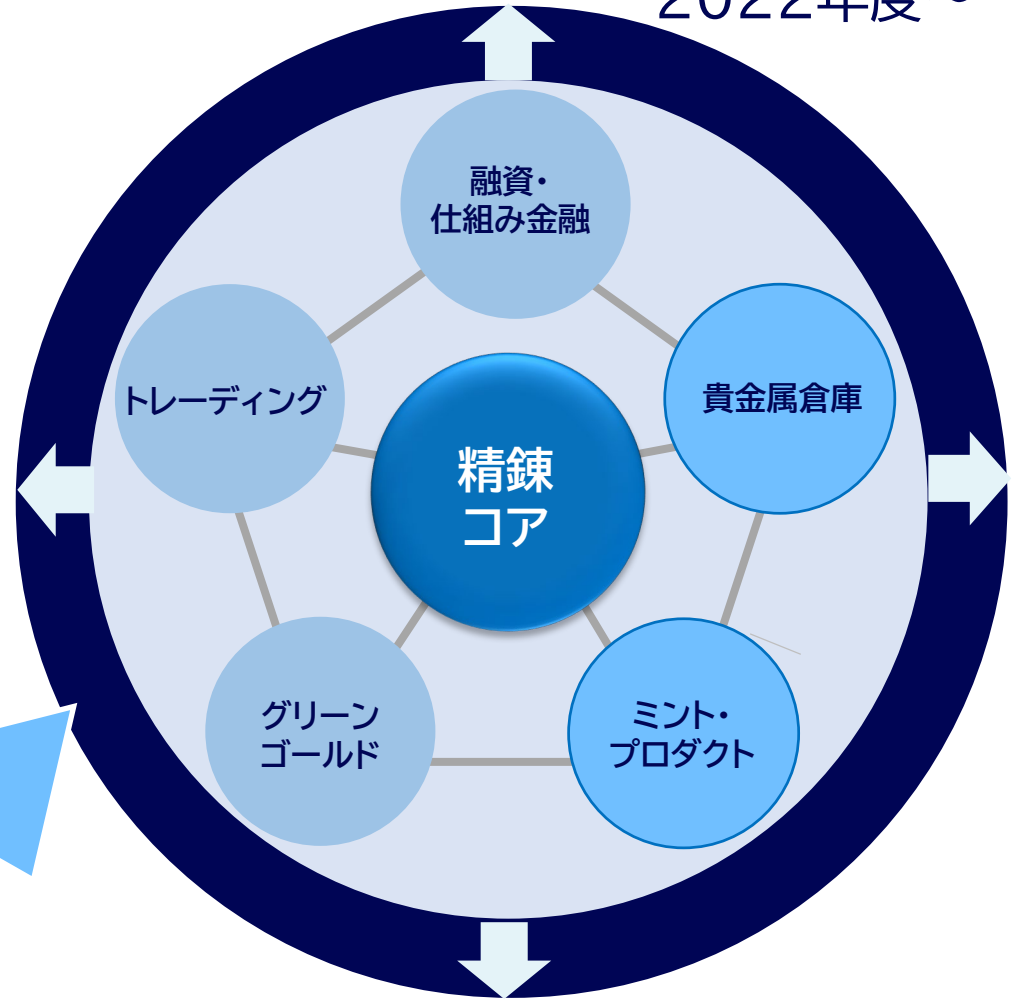
- ・ミント、プロダクト



「アメリカン・リザーブ」
米国採鉱・米国精錬で
大ヒットした当社製品

宝飾産業顧客の拡大

- (人権・環境配慮の原材料調達)
- ・グリーンゴールド



精錬
事業

2015年度
(買収時)

① 貴金属倉庫事業の立上げ

NY商品取引所適格
バー等を製造、搬入



当社のCOMEX認定倉庫(NY州)

保管料を毎月支払
(引き出し時は退去料)

アサヒ
リファイニング

金・銀の所有者

COMEXを通じて金・銀を受渡

② トレーディング強化

トロント市内にグローバルトレーディングオフィス設置

カラーオプションを組み合わせたゼロコストオプション等のサービス提供

- 事業拡大には継続的な投資実行が必要
- 計画的な設備新設/更新を実施し処理能力を拡大

単位：億円

ひびき工場



2021年10月竣工
投資総額：約17億円

2025年10月竣工予定
投資総額：60億円

横浜工場



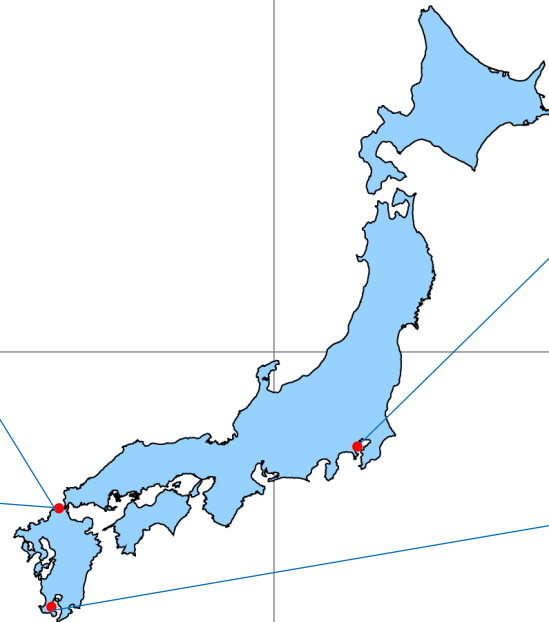
新門司工場



2020年10月竣工
投資総額：約40億円

2018年4月竣工
投資総額：約18億円

谷山臨海工場



- 産業廃棄物処理をデジタルで効率化し、環境負荷を削減、低炭素で持続的な社会の実現に貢献
- 2023年4月に「DXE Station」をリリース、処分事業者向けサービスを追加することで、マニフェストから売上請求まで一連の産業廃棄物処理業務を劇的に効率化
- 同年7月に全国産業資源循環連合会標準様式準拠の電子契約サービス開始、更に顧客のDX化を推進



2022年6月～

DXE 処理

Phase01 DXE処理の提供を開始

代行起票や受注管理の機能により、収集運搬業者の業務効率化を実現。

電子マニフェスト代行起票

電子マニフェストの自動起票

配車・ドライバーアプリとの連携

2023年4月～

DXE Station

Phase02 DXE Stationをリリース

回収管理から搬入管理まで、全廃棄物処理業者をシームレスに繋げる。

排出・収運・処分の
ワークフロー

電子契約
コンプライアンスチェック

売上・請求管理

電子マニフェスト代行起票

電子マニフェストの自動起票

配車・ドライバーアプリとの連携

2025年～ DXE Station

Phase03 CO2排出量の抑制に寄与

CO2排出量の自動計算によるカーボンニュートラルへの貢献

CO2排出量の計算 ※

事業者レーティング&マツ
チング

カーボンクレジット対応

排出・収運・処分の
ワークフロー

電子契約
コンプライアンスチェック

売上・請求管理

電子マニフェスト代行起票

電子マニフェストの自動起票

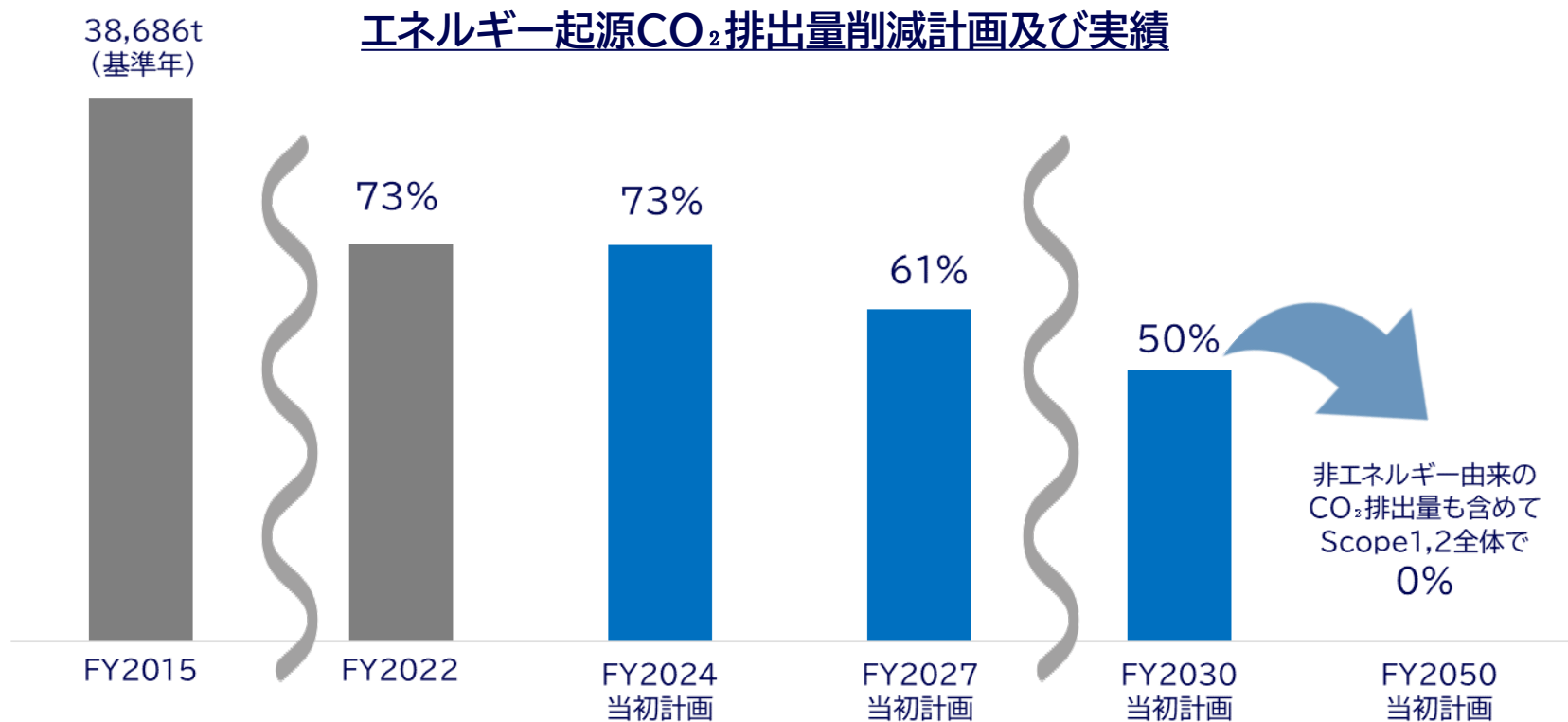
配車・ドライバーアプリとの連携

※ CO₂排出量計算は検討中

- 2023/3期のエネルギー起源CO₂ 排出量は基準年度比△27%
- Scope1.2.3CO₂排出量を開示し、第三者検証を実施中
- TCFD提言に基づき開示済、外部環境の変化による対応方針変更要否を毎年検証

項目	取り組み状況／対応方針
ガバナンス	<ul style="list-style-type: none"> • CEOを委員長とし、事業会社の社長と・技術部門・管理部門のトップで構成するサステナビリティ委員会において気候変動問題を経営レベルで審議 • 取締役会においてサステナビリティ委員会の審議事項を監督する体制を構築
戦略	<ul style="list-style-type: none"> • 4℃及び1.5℃でシナリオ分析を実施 • 事業マテリアリティの一つに「CO₂排出量の削減」を設定
リスク管理	<ul style="list-style-type: none"> • シナリオ分析等により抽出されたリスクや目標の対応状況を、サステナビリティ委員会及び取締役会に定期的に報告
指標と目標	<ul style="list-style-type: none"> • 2030年までにエネルギー起源CO₂を2015年度比50%削減(2023/3期実績は27%削減) • 合わせて2050年カーボンニュートラル達成(Scope1及びScope2)を目指す • 2023/3期Scope1排出量は92千t CO₂、Scope2排出量は14千t CO₂、Scope3排出量131千t CO₂

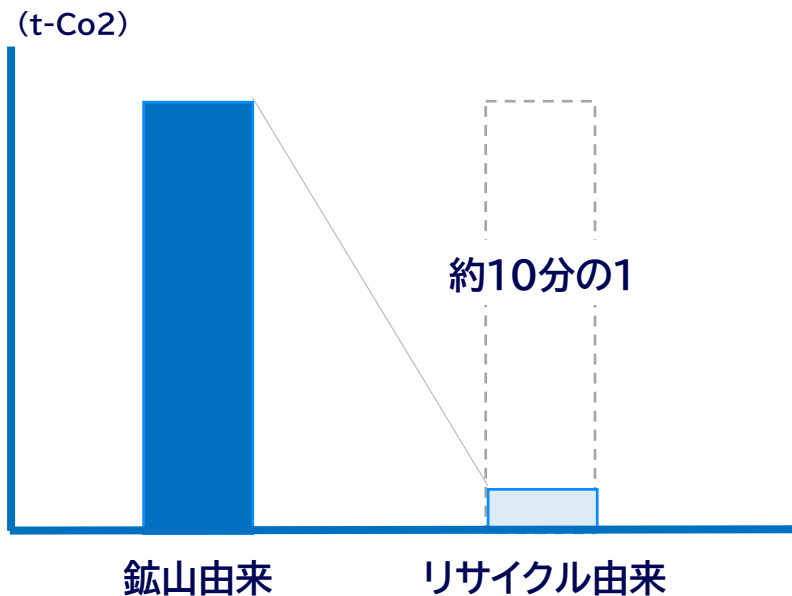
- 2021年12月に2050年カーボンニュートラルを宣言、中間目標として2030年までにエネルギー起源CO₂排出量50%削減(2015年度比)を目指す
- 2030年までのCO₂排出量削減計画は以下の通り、現状△27%と当初計画を上回るペースで進捗



※2022年に売却したJWガラスリサイクルの排出量は基準年度及び2023/3期までの実績から遡及処理
削減計画は2021年6月に作成

- 貴金属リサイクルは鉱山から貴金属を生産する場合に比べてCO₂排出量は約10分の1
- 貴金属リサイクルによる環境貢献効果は53.8万トンと当社排出量10.6千トンの5倍以上

貴金属リサイクルによる

CO₂排出量環境貢献効果53.8万t CO₂

森林の温室効果ガス吸収量換算
226km²(琵琶湖の約1/3に相当)



米国環境保護庁のデータをもとに作成
当社自身のCO₂削減を示すものではありません

- ジャパンウェイストは、パートナーとともに「グリーン水素サプライチェーン構築に向けたシステム開発」事業で環境省の補助金を受領
- 2022年12月に新門司工場へ水素製造装置の導入が完了し、2023年3月末に技術実証試験を無事終了、引き続き水素サプライチェーンの構築と副産物の販売を目指す
- 横浜工場(廃棄物発電施設建設予定)に水素製造装置導入を計画、環境省の「2023年度 二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金」の事業として採択。

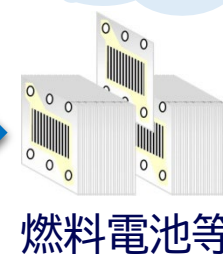
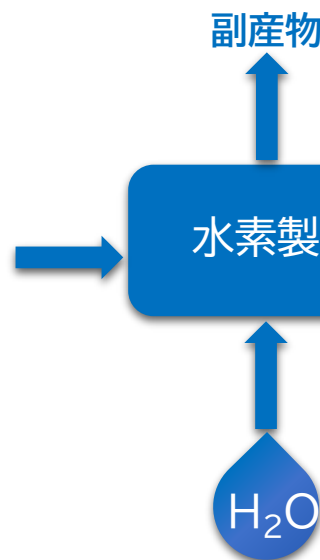
副産物の販売により事業性を確保し
水素の普及拡大に貢献



CO₂排出削減



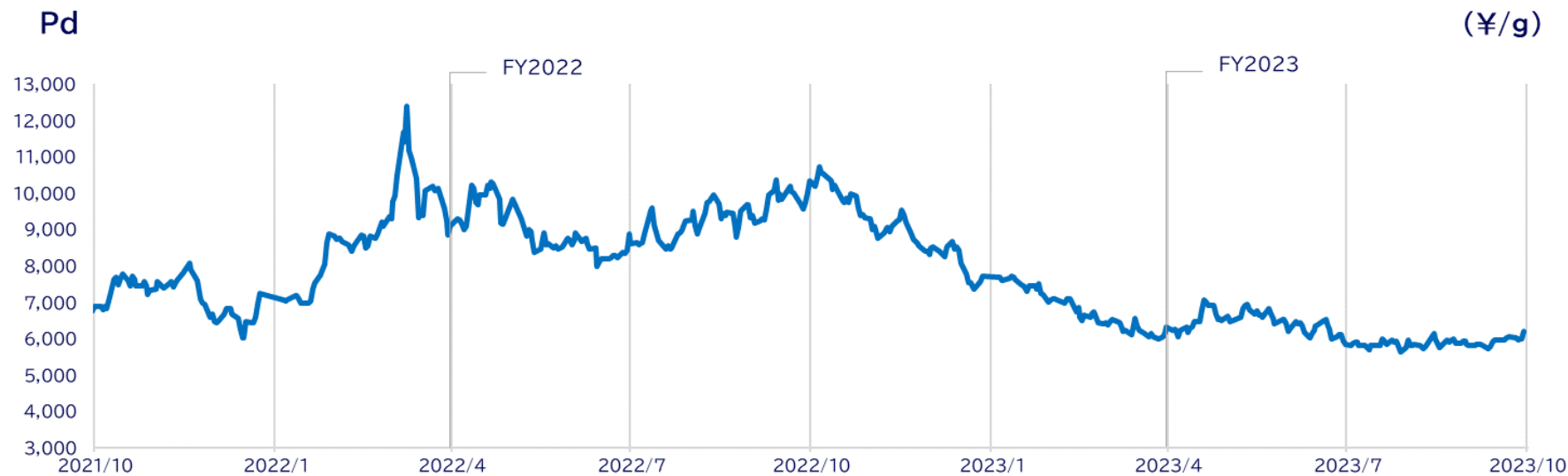
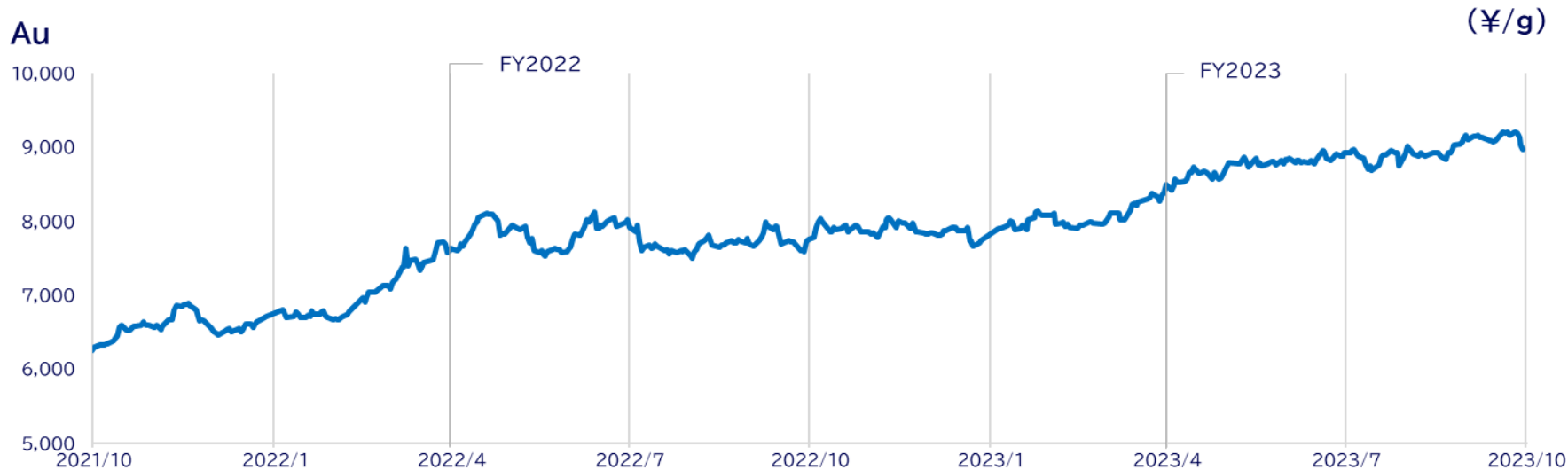
廃棄物発電
(未利用安定電源)



燃料電池等

電力

熱





単位:円

貴金属 価格 (1gあたり)	FY2022 2Q	FY2023 2Q	
	期中 平均価格	期中 平均価格	増減
金	7,709	8,987	1,278
パラジウム	9,341	5,888	△ 3,454
プラチナ	4,018	4,407	389

◆参照元
 金…山元建値
 パラジウム…日経安値
 プラチナ…小売価格(税抜)